

経済レポート

グラフで見る東海経済(2017年1月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

【今月の景気判断】

東海経済は、横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる。生産は、自動車産業における生産停止の影響などにより弱含んでいたが、その後の挽回生産などもあって水準を戻し、一部に持ち直しの動きが見られる。輸出は持ち直しの動きが見られる。雇用は、総じて横ばい圏で推移している。賃金は持ち直しの動きが見られる。個人消費は、物価の落ち着きによる下支え効果もあって横ばい圏で推移している。設備投資は、増加が一服している。住宅着工は、持ち直しの動きが見られる。公共投資は、弱含んでいる。

先行きは、世界経済が緩やかに回復する中、持ち直しの動きが続くと見込まれる。生産は持ち直しを見込むが、そのペースは緩やかなものにとどまろう。輸出は、米国向けを中心に持ち直しの動きが続くと見られるが、新興国経済減速の影響に留意が必要となる。消費は、所得環境の緩やかな持ち直しを見込むものの、横ばい圏での推移となろう。設備投資、公共投資も均してみると横ばい圏の推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	↗		↗
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	↗		→	生産	→		↗
設備投資	→		→	雇用	→		→
公共投資	↘		→	賃金	→		→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～イギリスのEU離脱問題、中国等新興国経済の減速懸念、トランプ新政権の経済政策
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、挽回生産一巡後の自動車関連の生産動向、下げ止まりの動きが見られる工作機械受注、インバウンド消費の先行き、企業収益と設備投資の動向
- ・政策～金融政策枠組み変更後の追加緩和の可能性、2016年度補正予算の効果
- ・家計～賃金の改善状況と物価動向の家計消費への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	12月のコメント	1月のコメント	ページ
1. 景気全般	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	4~5
2. 生産	一部に持ち直しの動きが見られる	一部に持ち直しの動きが見られる	6~8
3. 雇用	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	8~9
4. 賃金	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	10~11
5. 個人消費	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移している	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる	14
7. 設備投資	増加が一服している	増加が一服している	15~16
8. 公共投資	弱含んでいる	弱含んでいる	17
9. 輸出入	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	18~19
10. 物価	緩やかに低下	緩やかに低下	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに増加	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料:「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

5. 個人消費

11月の東海3県の大型小売店(百貨店+スーパー、既存店)の販売額は前年比+0.2%と9ヶ月ぶりに増加、新車登録台数(乗用車、含む軽)も、前年比+9.8%と5ヶ月連続で増加となり、弱い動きがおさまっている。

6. 住宅投資

11月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で+4.3%と2ヶ月連続で増加した。

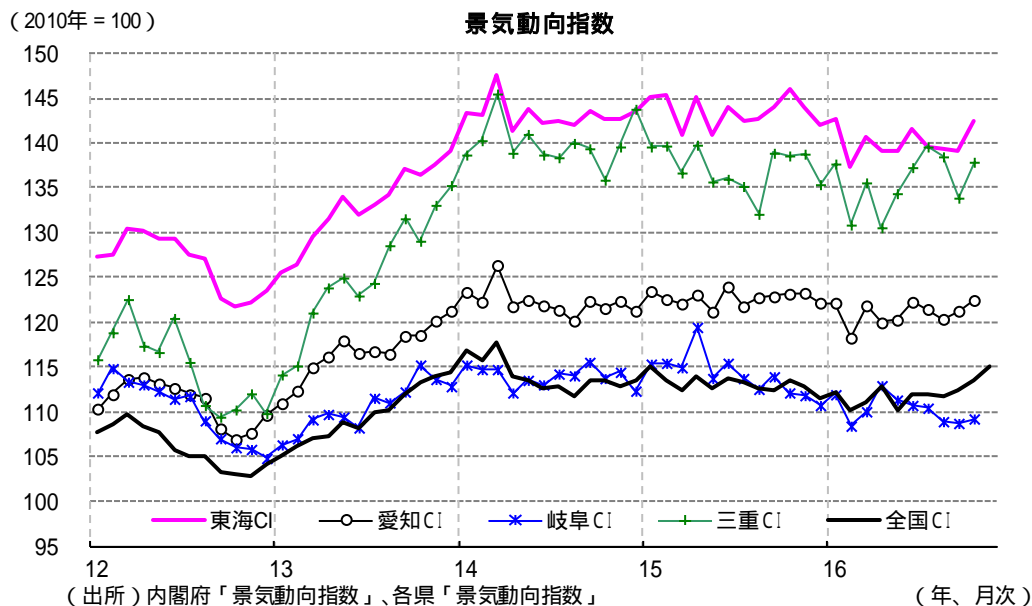
【主要経済指標の推移】

経済指標		15 10-12	16 1-3	16 4-6	16 7-9	16 10-12	16 7	16 8	16 9	16 10	16 11	16 12
景気全般	東海景気動向指数(CI、一致指数)	144.0	140.2	139.8	139.4		139.6	139.4	139.2	142.4		
	景気動向指数 愛知(CI、一致指数)	122.9	120.8	120.9	121.1		121.5	120.4	121.3	122.5		
	岐阜(CI、一致指数)	111.6	110.2	111.7	109.4		110.5	109.0	108.8	109.3		
	三重(CI、一致指数)	137.6	134.7	134.1	137.3		139.6	138.5	133.9	137.9		
	景気ウォッチャー調査(現状判断DI、季節調整値)	50.0	45.5	41.4	44.7	49.1	43.6	44.9	45.6	48.5	48.7	50.1
	(先行判断DI、季節調整値)	52.0	48.0	42.2	47.9	51.1	46.6	48.5	48.5	51.2	51.0	51.0
	短観業況判断DI(大企業製造業)	9	1	3	12	6	5	<3月予想>				
(中小企業製造業)	0	-3	-7	-6	4	-11	<3月予想>					
(非製造業)	16	11	6	6	12	4	<3月予想>					
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	1.0	0.5	0.8	0.6								
非製造業(兆円)	0.3	0.2	0.5	0.4								
生産	鋳工業生産(季節調整済、前期比・前月比)	3.2	-4.7	0.4	3.1		0.1	0.0	-0.5	2.1	-0.4	
	鋳工業出荷(季節調整済、前期比・前月比)	3.3	-4.5	0.4	2.6		1.5	-2.2	2.1	3.0	-0.5	
	鋳工業在庫(季節調整済、前期比・前月比)	-1.3	-0.9	2.3	-5.0		-3.0	-2.5	-2.6	-2.4	-0.2	
	鋳工業生産 輸送機械(")	4.5	-4.5	3.8	4.0		0.9	-5.2	5.6	-0.9	-1.8	
	はん用・生産用・業務用機械(")	1.2	-5.4	-1.8	-1.0		-3.0	3.7	1.6	4.6	-3.2	
	電子部品・デバイス工業(")	11.0	-7.1	-10.2	3.5		3.5	3.6	-13.3	11.8	5.4	
	プラスチック製品工業(")	6.8	-7.4	3.4	6.3		2.1	-0.4	0.6	-0.8	-2.6	
	化学(")	-6.8	-2.7	6.5	4.2		0.4	6.2	-5.6	-3.2	6.0	
	電気機械(")	0.1	0.1	4.0	4.4		-4.1	4.3	4.4	-4.3	4.9	
	鉄鋼(")	0.2	-6.4	7.9	-1.1		-1.9	-3.3	5.8	0.9	-0.2	
	金属工作機械受注 総受注(億円)	366.5	346.2	351.9	337.0		351.2	325.6	334.2	305.3	390.3	
国内受注(億円)	128.7	116.4	130.6	135.8		152.5	126.4	128.7	126.7	125.0		
海外受注(億円)	237.8	229.7	221.4	201.2		198.8	199.3	205.6	178.6	265.3		
雇用	完全失業率(原数値、%)	2.6	2.8	2.5	2.3							
	就業者数(原数値、万人)	770	784	789	780							
	常用雇用指数 愛知	101.7	100.8	102.0	102.5		102.4	102.6	102.4	102.5		
	岐阜	101.1	101.5	102.2	102.4		102.0	102.5	102.7	102.4		
	三重	98.6	97.8	97.9	98.4		98.3	98.4	98.6	98.6		
	有効求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.6	1.6	1.6	1.6		1.62	1.60	1.63	1.67	1.67	
	岐阜(季節調整値、倍)	1.6	1.7	1.8	1.7		1.71	1.65	1.72	1.72	1.72	
三重(季節調整値、倍)	1.3	1.3	1.4	1.5		1.48	1.45	1.47	1.46	1.44		
新規求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	2.4	2.5	2.5	2.5		2.44	2.40	2.62	2.55	2.51		
岐阜(季節調整値、倍)	2.3	2.4	2.5	2.4		2.35	2.35	2.45	2.47	2.40		
三重(季節調整値、倍)	1.9	2.0	2.1	2.0		2.19	1.84	2.09	2.17	1.93		
賃金	現金給与総額	1.0	0.6	0.7	-0.5		-0.9	-0.2	-0.2	0.2		
	所定内給与	-0.6	-0.5	-1.0	0.8		1.1	0.9	0.5	0.5		
	所定外給与	4.5	-0.7	0.0	-3.6		-4.5	-3.4	-2.8	-3.2		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	-9.7	-10.6	-1.3	-2.9		-1.2	-7.0	-1.2	-2.4	0.8	
定期収入	-9.7	-10.6	-1.3	-2.9		-3.2	-2.9	-0.6	-2.5	-0.5		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	-6.5	-3.6	4.2	3.7		11.2	-0.9	0.8	5.4	-1.9	
	百貨店販売額(名古屋市内)	3.1	-2.0	-0.8	-14.3	-4.5	-1.5	-5.8	-10.9	-1.3	-2.5	-1.3
	百貨店+スーパー販売額						-0.4	-3.3	-4.9	-1.4	0.2	
	コンビニエンスストア販売額	4.6	4.5	2.7	3.2		2.7	2.3	4.6	5.0	4.4	
	新車登録台数(含む軽)	-8.6	-6.9	-1.3	3.0		0.8	2.1	5.6	1.2	9.8	
	家電大型専門店販売額	-0.6	-0.6	1.2	-3.2		2.5	-14.2	3.1	3.6	-3.0	
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	41.6	41.4	40.9	41.4	41.1	40.2	41.8	42.3	41.1	40.1	42.2
トヨタ国内生産台数(季節調整済、万台)	27.8	25.6	25.5	27.6	26.6	26.4	28.9	27.5	25.7	27.6	26.6	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済年率換算、千戸)	100.1	106.5	106.2	111.7		111.2	113.2	110.6	111.4	116.2	
	(前年比、%)	3.6	5.6	0.6	5.1		1.8	12.7	1.7	11.1	13.3	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	8.9	2.7	11.3	-6.6							
	(非製造業)	11.2	-3.1	22.9	9.5							
企業立地件数	-	-	-	-	-	20	14					
公共投資	公共工事請負額	0.7	7.3	-10.4	3.2	-10.2	-23.2	25.6	13.9	-12.7	-15.7	-1.3
輸出入	実質輸出(季節調整済、2010年=100)	115.3	112.0	110.3	112.5		111.2	113.1	113.1	114.6	114.7	
	通関輸出(金額ベース、円建て)	-0.5	-6.9	-8.4	-10.8		-14.6	-8.9	-8.5	-14.3	-5.0	
	実質輸入(季節調整済、2010年=100)	118.4	116.9	115.2	112.2		113.1	114.3	109.1	114.8	113.2	
	通関輸入(金額ベース、円建て)	-11.8	-17.1	-19.1	-22.4		-25.6	-18.4	-23.1	-21.6	-9.2	
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	-0.2	-0.3	-0.6	-0.6		-0.7	-0.7	-0.5	-0.4	-0.5	
	(食料及びアルコールを除く総合)	0.7	0.5	0.5	0.1		0.3	0.1	0.0	0.2	0.0	
金融	国内銀行預金残高	2.9	2.7	3.0	3.3		3.5	3.2	3.0	3.4	4.1	
	国内銀行貸出残高	2.1	1.6	1.3	1.4		1.3	1.3	1.4	2.1	2.4	
倒産	倒産件数	-21.8	-5.5	-11.1	-4.4	26.6	-17.5	15.8	-9.5	4.7	13.2	83.8

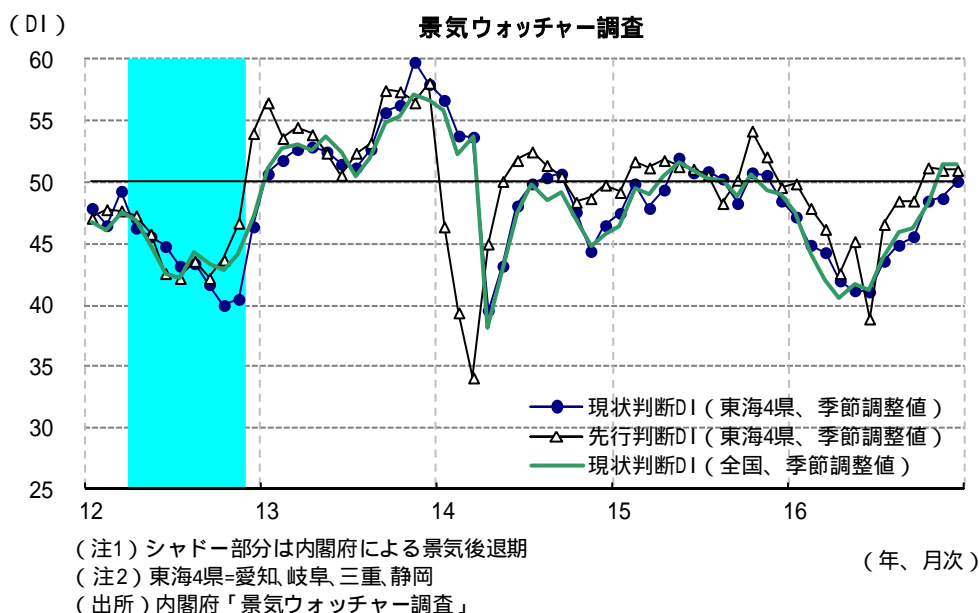
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる

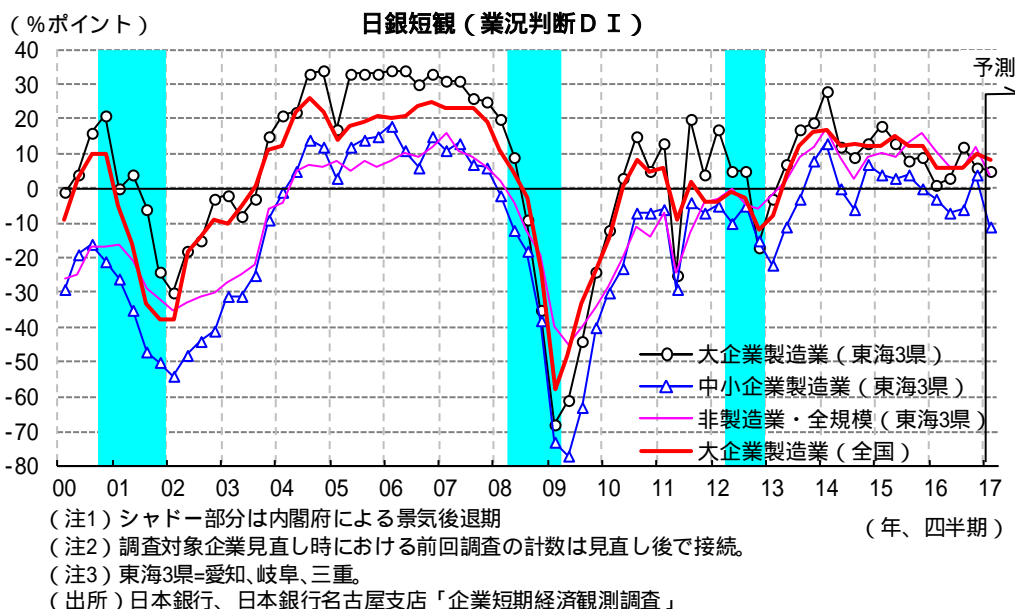
10月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、採用系列7系列のうち、生産指数(金属工作機械)、実質輸入、生産指数(鋳工業)、大型小売店販売額、人件費比率など6系列がプラス寄与となり、前月差+3.2ポイントの142.4と4ヶ月ぶりに上昇した。各県の動向を見ると、10月の愛知県のCI一致指数は2ヶ月連続で上昇し、三重県は3ヶ月ぶりに上昇し、岐阜県は6ヶ月ぶりに上昇した。



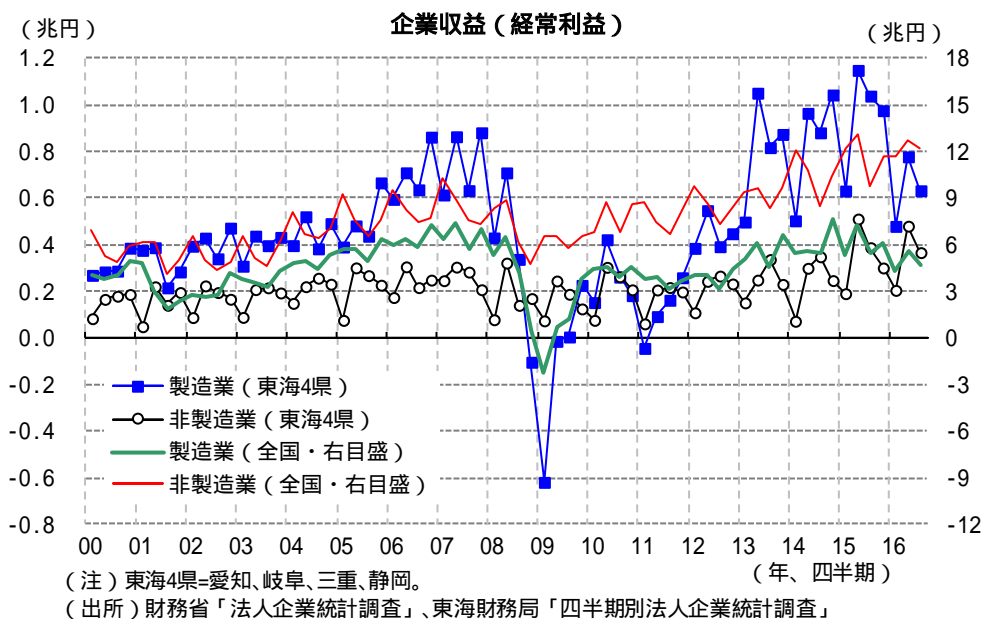
12月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DI(季節調整値)は前月差+1.4の50.1と6ヶ月連続で上昇し、2015年11月以来の水準となった。先行き判断DI(季節調整値)は、前月と同水準の51.0となった。南関東や近畿など全国11地域中7地域において先行き判断DIが低下する中、東海のDIは横ばいに留まった。



日銀短観12月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+6と、前回9月調査から6ポイント低下、中小企業製造業は+4と10ポイント上昇、非製造業[全規模]は、+12と6ポイント上昇した。業況判断D Iの3月予測は、大企業製造業(+5)と中小企業製造業(-11)、非製造業[全規模](+4)はいずれも12月に比べて悪化が見込まれている。

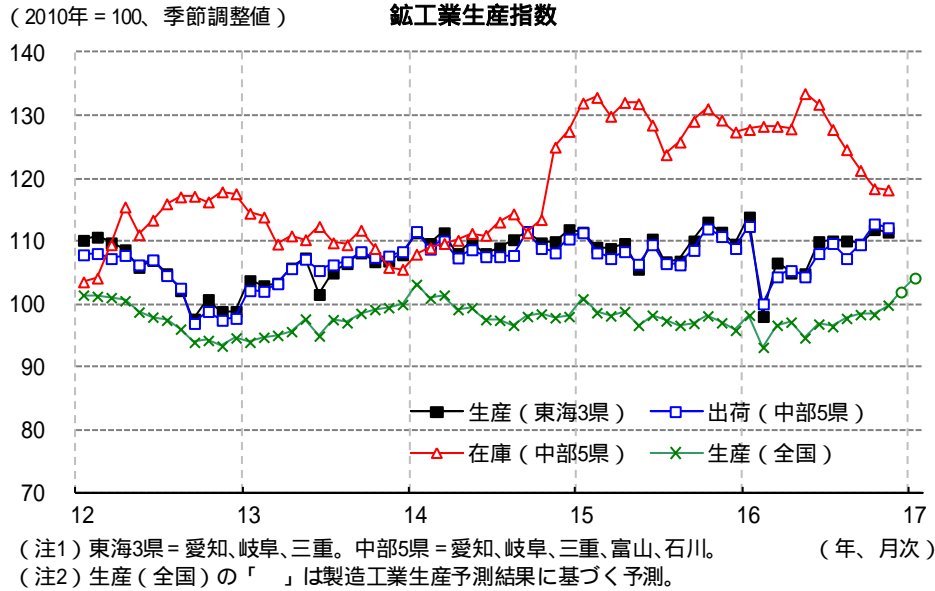


2016年7~9月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で-29.9%と4四半期連続で減少した。製造業は同-39.1%と4四半期連続で減少し、非製造業は同-5.5%と2四半期連続で減少した。日銀短観12月調査では、16年度の経常利益は、全産業で同-25.8%、製造業が同-30.4%、非製造業が同-13.2%と、いずれも前回9月調査から上方修正されたものの、大幅減を見込んでいる。

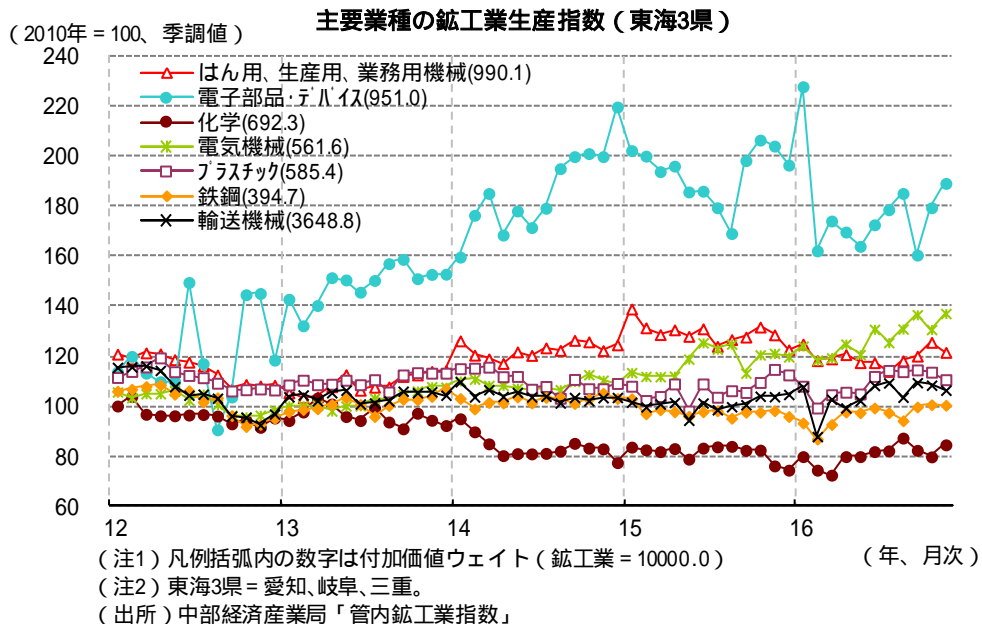


2. 生産 ~一部に持ち直しの動きが見られる

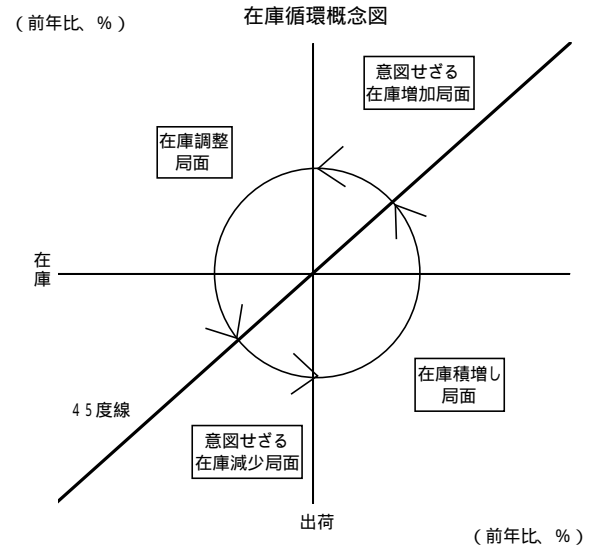
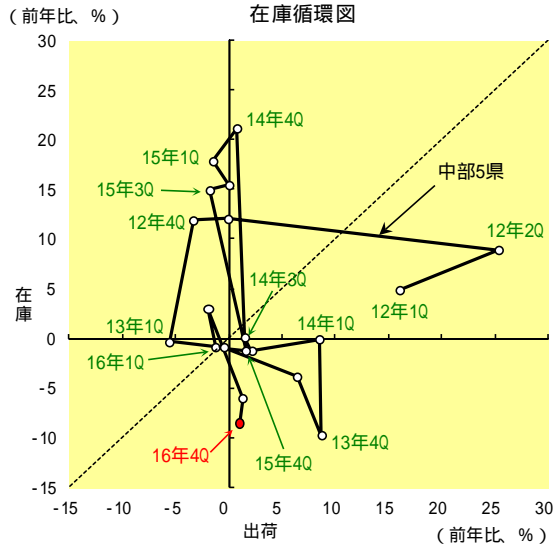
11月の東海3県の鉱工業生産は前月比 - 0.4%と2ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイス、電気機械などが増加したが、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、プラスチック製品などが減少した。東海の実産は、自動車の挽回生産などもあって水準を戻した後、概ね横ばい圏で推移しているが、在庫が減少するなど、一部に持ち直しの動きが見られる。先行きについても持ち直しを見込むが、そのペースは緩やかなものにとどまろう。



業種別では、電子部品・デバイス(前月比+5.4%)は2ヶ月連続で増加し、電気機械(同+4.9%)は2ヶ月ぶりに、化学(同+6.0%)は3ヶ月ぶりに増加したが、輸送機械(同-1.8%)とプラスチック製品(同-2.6%)はそれぞれ2ヶ月連続で減少し、はん用・生産用・業務用機械(同-3.2%)は4ヶ月ぶりに、鉄鋼業(同-0.2%)は3ヶ月ぶりに減少した。

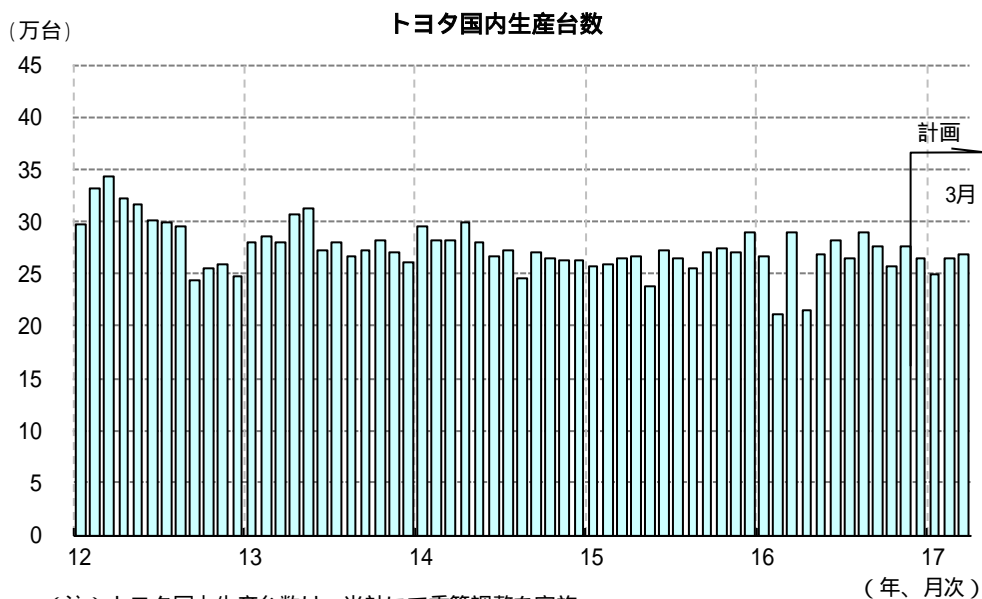


11月の中部5県の出荷は、前月比 - 0.5%と3ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイス(同+9.4%)、電気機械(同+4.5%)などが増加したが、輸送機械(同-3.1%)、石油・石炭製品(同-6.9%)などが減少した。在庫は、同-0.2%と6ヶ月連続で減少した。電気機械(同+3.9%)、鉄鋼業(同+2.8%)などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械(同-3.2%)、電子部品・デバイス(同-4.5%)などが減少した。



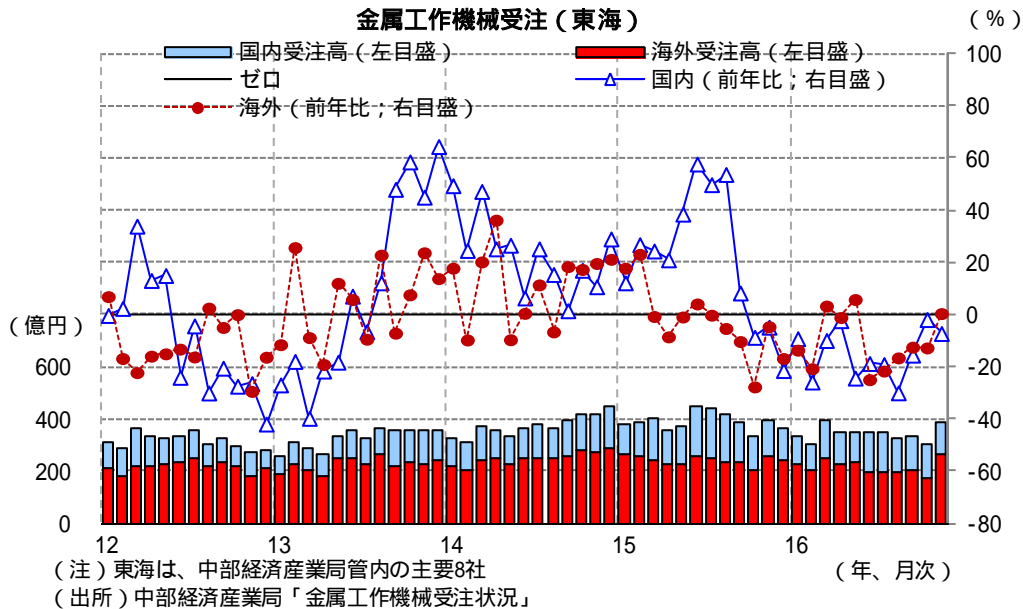
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
 (注3) 直近16年4Qの出荷、在庫は11月の前年比
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、向こう3ヶ月(17年1~17年3月)の国内日当たり生産台数は1万2千台後半から1万3千台前半のレンジで推移する見込みである。「プリウス」、「C-HR」など新型車を中心に増産し、国内販売を下支えする見込みであるが、原油安により販売不振となっている中東向けなど輸出台数は弱含みで推移すると見込まれている。



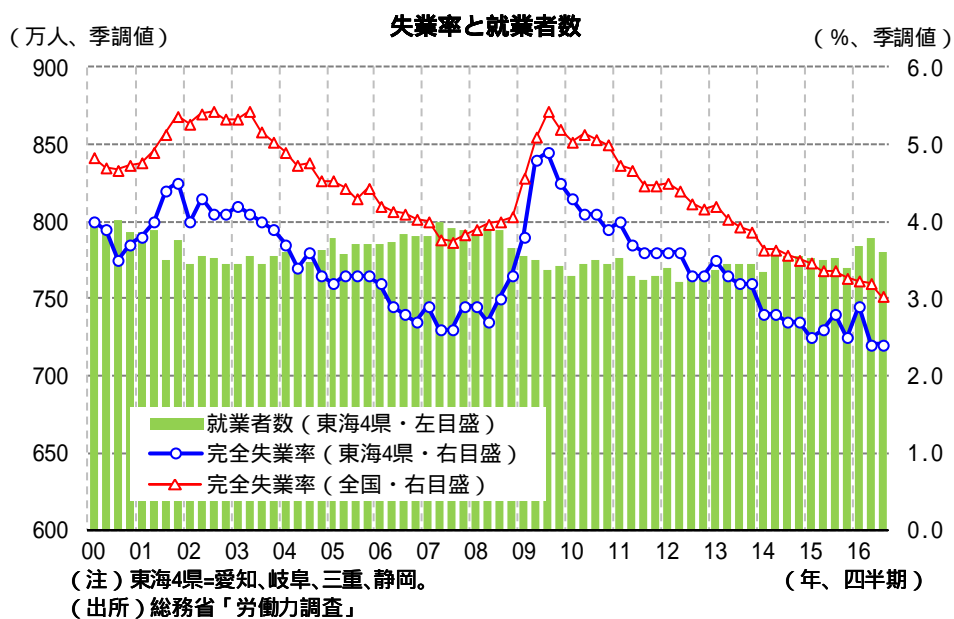
(注) トヨタ国内生産台数は、当社にて季節調整を実施。
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

11月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比 - 2.1%と15ヶ月連続で減少した。海外受注(同 + 0.5%)は6ヶ月ぶりに増加したが、国内受注(同 - 7.1%)が14ヶ月連続で減少した。地域別では、中国向けが14ヶ月ぶりに増加し、アジア(含む中国)向けは17ヶ月ぶりに増加したが、米国向けは2ヶ月連続で減少し、欧州向けは8ヶ月連続で減少した。

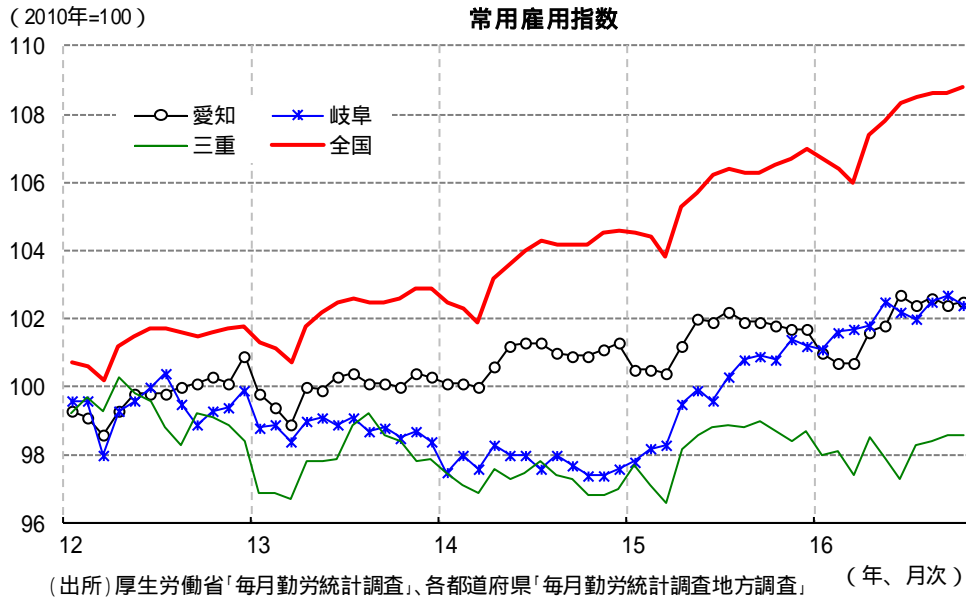


3. 雇用 ~ 横ばい圏で推移している

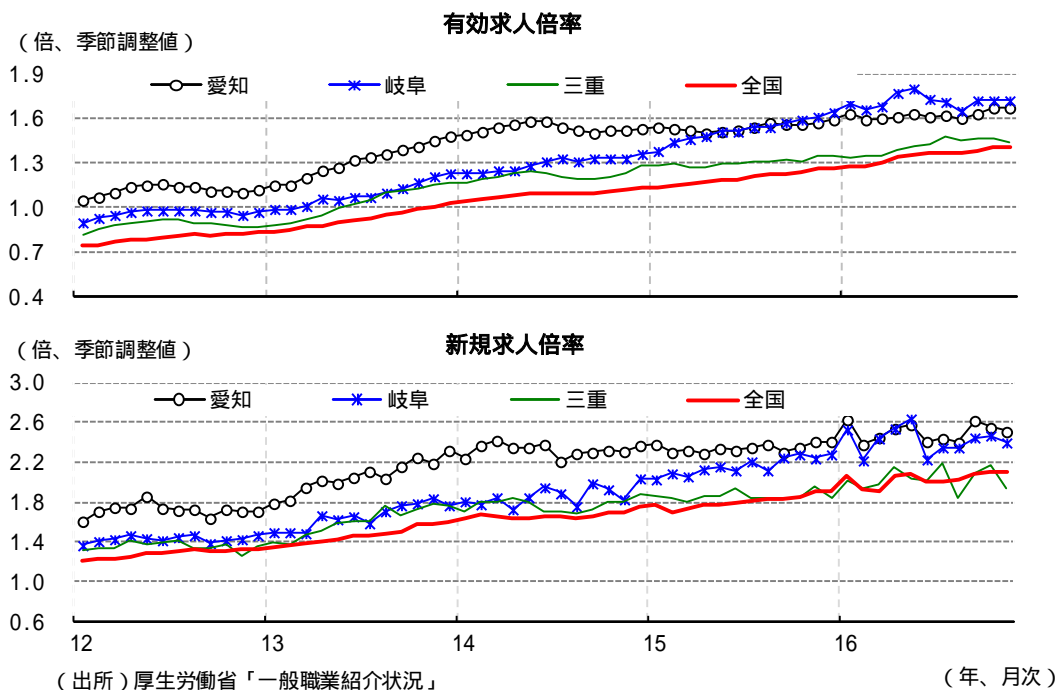
2016年7~9月期の東海4県の完全失業率は2.4% (前期と同水準)と全国(3.2%)と比べても低い水準で推移している。同時期の就業者数は前期差9万人の減少、完全失業者は前期と同水準となった。有効求人倍率は高水準で横ばい圏で推移しているが、東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きとなっている。



10月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.7%と5ヶ月連続で、岐阜県は同+1.6%と22ヶ月連続で上昇した。一方、三重県は同-0.1%と6ヶ月連続で低下した。東海3県の常用雇用指数は、3県いずれも全国(同+2.2%)と比べて弱い動きとなっている。

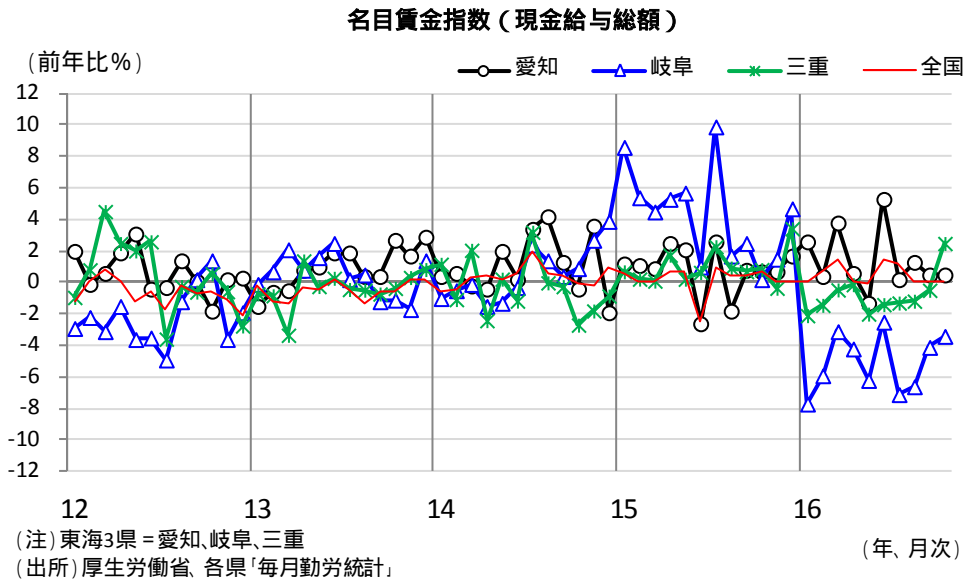


11月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県は1.67倍、岐阜県は1.72倍と、ともに前月と同水準となった。三重県は1.44倍と2ヶ月連続で前月(1.46倍)を下回った。新規求人倍率(同)は、愛知県(2.51倍)は2ヶ月連続で、岐阜県(2.40倍)は5ヶ月ぶりに、三重県(1.93倍)は3ヶ月ぶりに、それぞれ低下した。

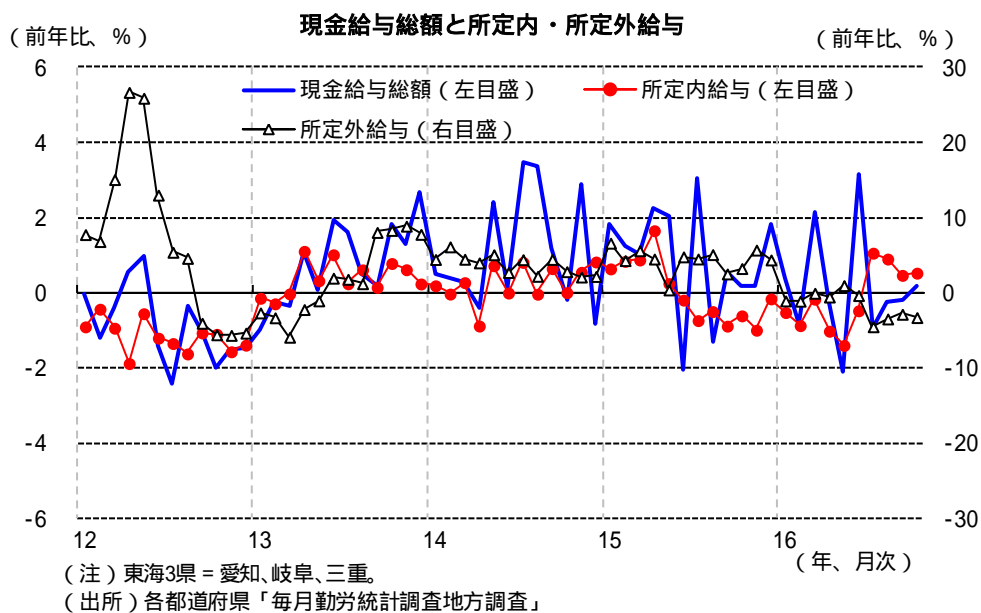


4. 賃金 ~ 持ち直しの動きが見られる

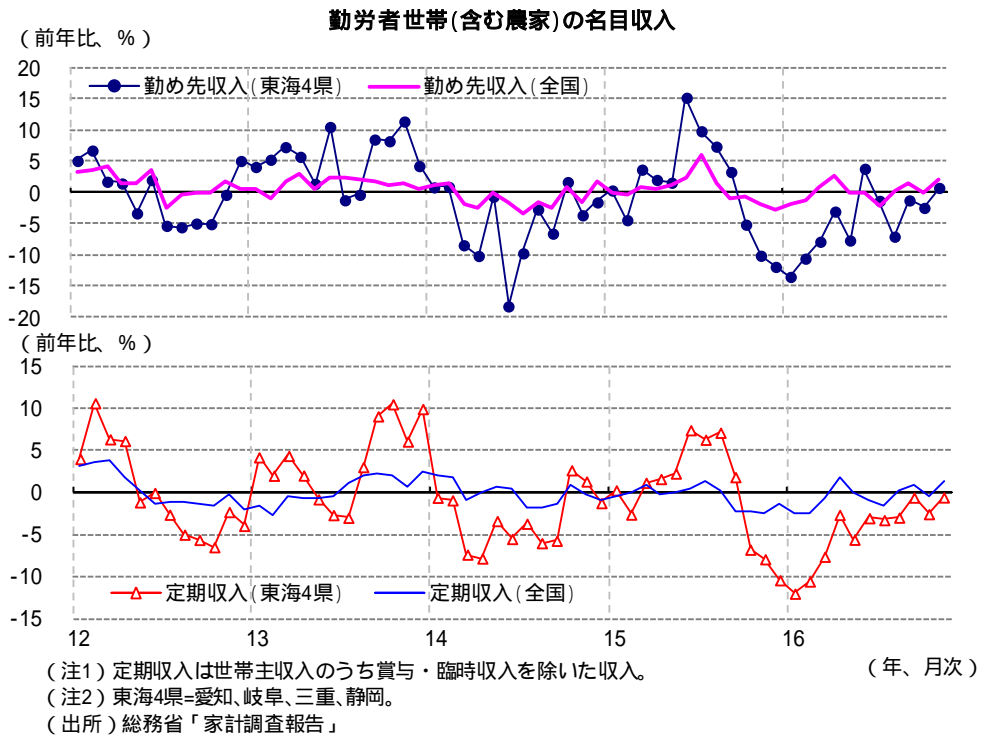
東海3県の10月の名目賃金指数(現金給与総額)をみると、岐阜県は前年比 - 3.4%と10ヶ月連続で低下したが、愛知県は同 + 0.5%と5ヶ月連続で、三重県は同 + 2.5%と10ヶ月ぶりに上昇した。東海3県の賃金は毎月の変動が大きいのが、均してみると横ばい圏で推移する中、所定内給与が増加するなど持ち直しの動きが見られる。今後については、自動車の挽回生産による押し上げ効果も一巡し、全体としては横ばい圏での推移が見込まれる。



東海3県の10月の一人当たり現金給与総額(加重平均)は、前年比 + 0.2%と4ヶ月ぶりに増加した。内訳をみると、所定内給与は同 + 0.5%と4ヶ月連続で増加したが、所定外給与は同 - 3.2%と5ヶ月連続で減少した。

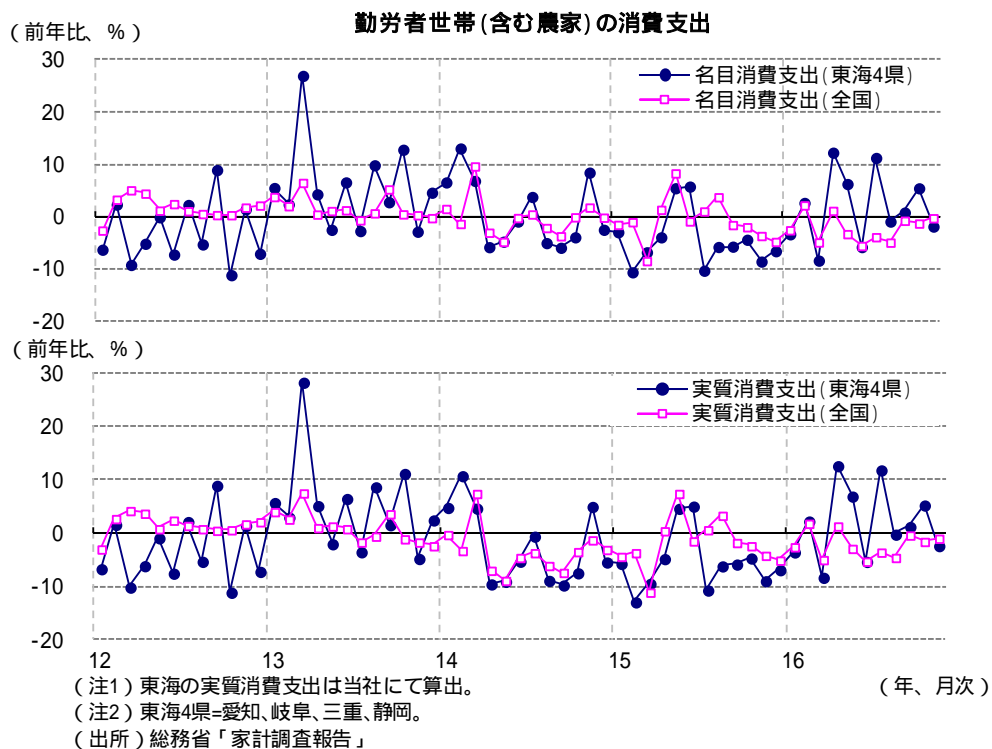


家計調査によると、11月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比+0.8%と5ヶ月ぶりに増加した。一方、定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）は同-0.5%と14ヶ月連続で減少した。

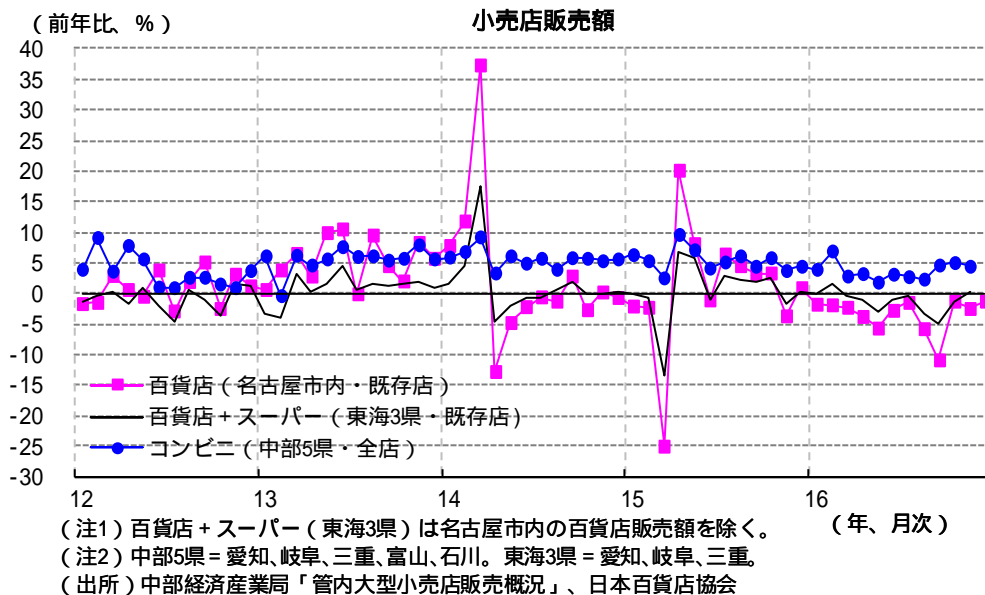


5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移している

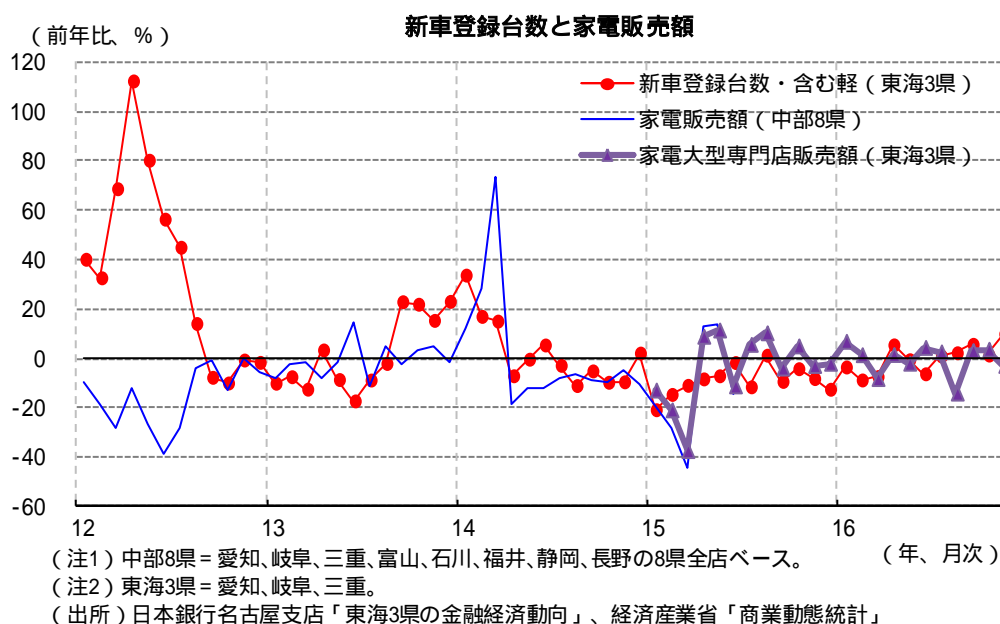
11月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の消費支出は、名目で前年比-1.9%、実質で同-2.3%と、いずれも3ヶ月ぶりに減少した。個人消費は、他の消費関連の指標も合わせてみると総じて横ばい圏で推移している。今後の個人消費は、実質賃金の増加はあまり期待できず、節約志向も続いており、横ばい圏での推移が見込まれる。



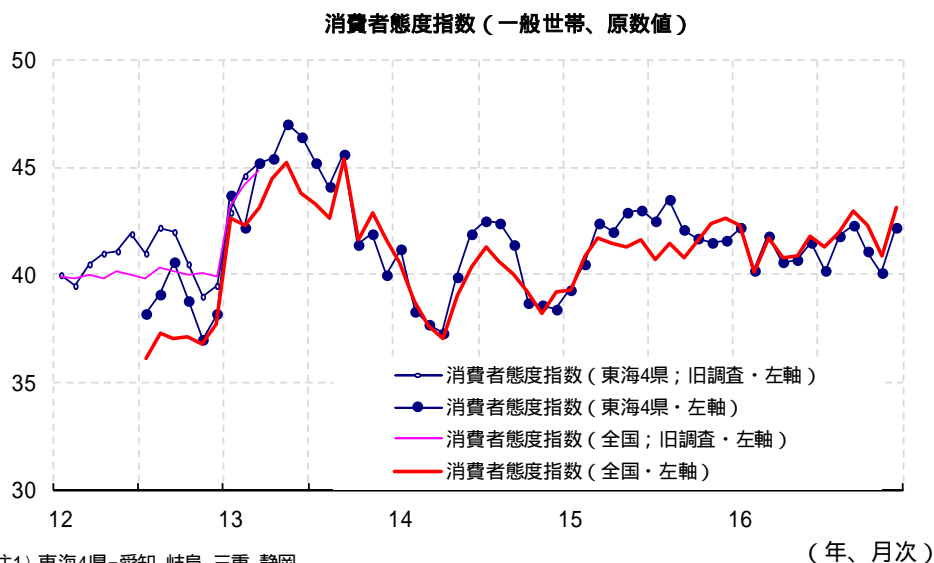
11月の東海3県の大型小売店(百貨店+スーパー、既存店)の販売額は前年比+0.2%と9ヶ月ぶりに増加した。また、11月の中部5県のコンビニ販売額(全店)は同+4.4%と増加が続いた。12月の名古屋市内の百貨店販売額は、名古屋駅地区の新ビル開業ラッシュが追い風となった店舗もあったが、婦人服の低迷や、大型テナント導入・大規模改装に伴う売り場面積の減少が押し下げ要因となって、同-1.3%と12ヶ月連続で減少した。



11月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)は、軽自動車販売が前年比で見て引き続き落ち込みが続いている中で、小型乗用車は2ヶ月ぶりに増加、普通乗用車は12ヶ月連続で増加し、全体で前年比+9.8%と5ヶ月連続で増加した。また、11月の東海3県の家電大型専門店販売額は、同-3.0%と3ヶ月ぶりに減少した。



消費者マインドを表す消費者態度指数(東海、一般世帯、原数値)は、12月は前月差+2.1ポイントと3ヶ月ぶりに上昇した。東海の消費者マインドは均して見ると横ばい圏で推移している。今後についても、景気が緩やかに持ち直す中で、株価の上昇なども背景に、横ばい圏での推移が見込まれる。



(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。

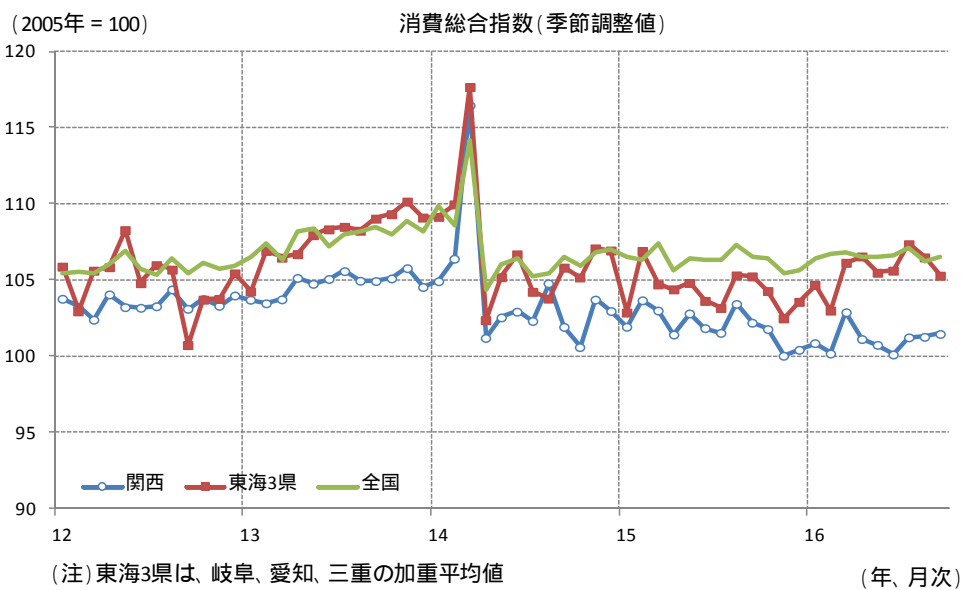
(注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。

2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。

郵送調査の2012年7月~2013年3月は試験調査による参考値。

(出所) 内閣府「消費動向調査」

内閣府が11月に公表した地域別消費総合指数によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、14年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げ横ばい圏で推移している。

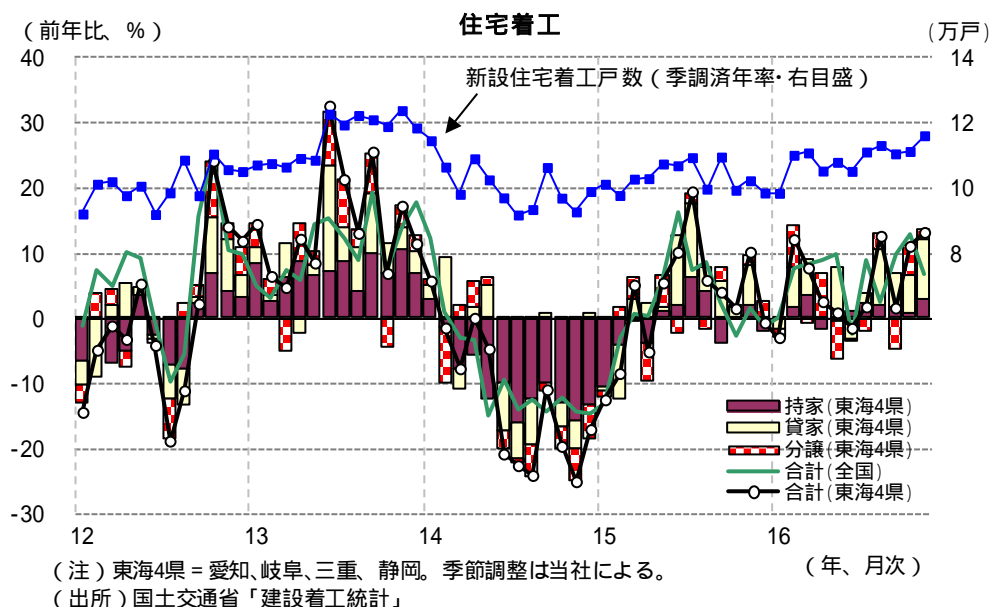


(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値

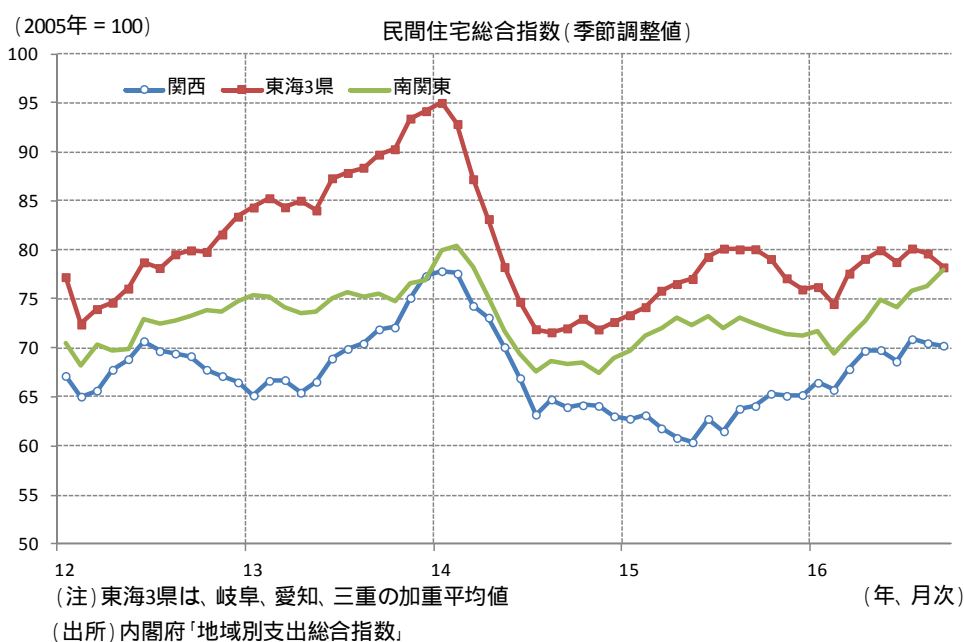
(出所) 内閣府「地域別支出総合指数」、「消費総合指数」

6. 住宅投資 ~ 持ち直しの動きが見られる

11月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で+4.3%と2ヶ月連続で増加し、持ち直しの動きが見られる。前年比では+13.3%(9,957戸)と5ヶ月連続で増加した。利用関係別の寄与度は、持家が6ヶ月連続、貸家が5ヶ月連続、分譲は2ヶ月連続でプラス寄与となった。足下では持ち直しの動きが出ているものの、先行きについては、横ばい圏での推移が見込まれる。

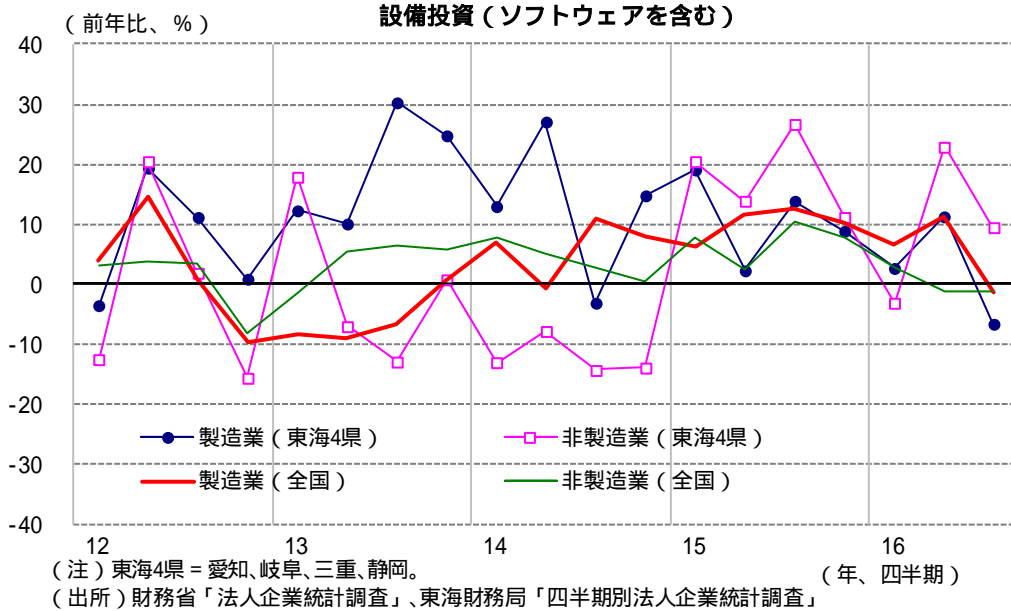


内閣府が11月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、15年8月をピークに弱い動きとなった後、16年に入って持ち直していたが、足下で持ち直しが一服している。

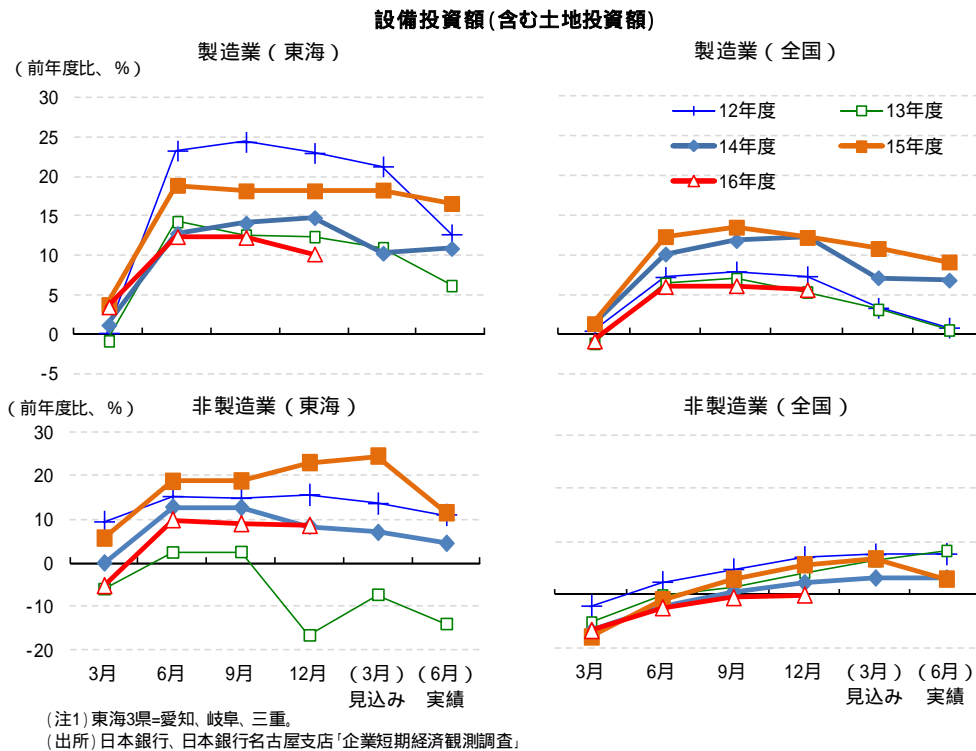


7. 設備投資 ~ 増加が一服している

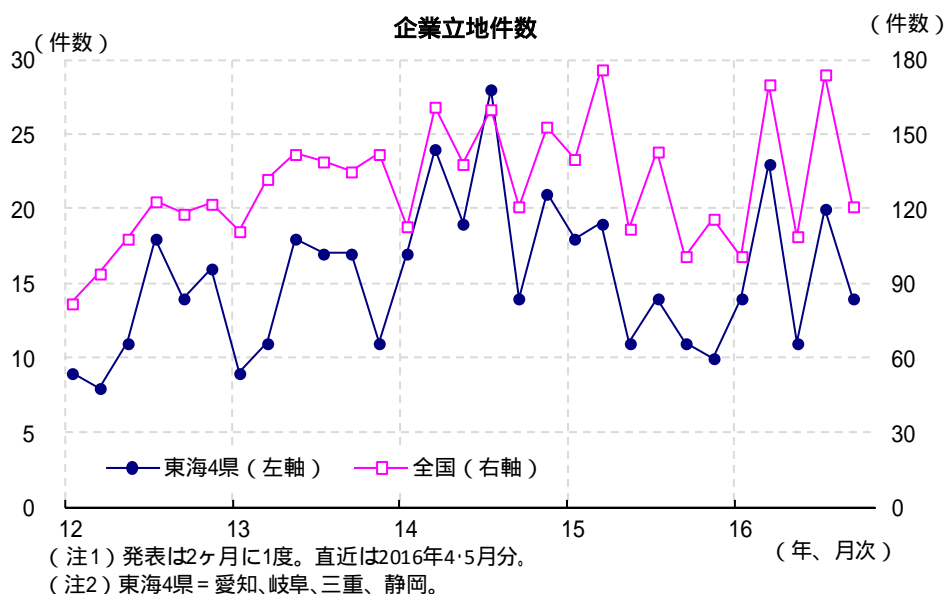
2016年7~9月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+0.2%と8四半期連続で増加したものの、伸び率は大きく縮小した。非製造業は同+9.5%と2四半期連続で増加したが、製造業が同-6.6%と8四半期ぶりに減少した。



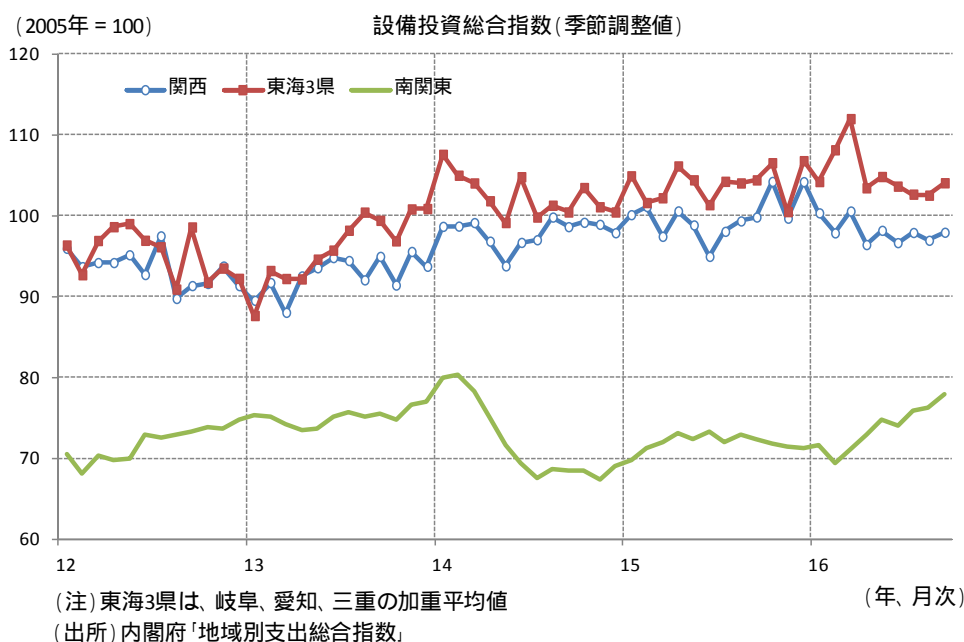
日銀短観12月調査によると、東海3県の16年度の設備投資は、全産業で同+9.5%、製造業同+10.2%、非製造業同+8.6%と引き続き全国を上回るペースでの増加を見込んでいるが、いずれも前回9月調査時の16年度計画に比べて小幅ながら下方修正となっている。



2016年8・9月の東海4県の企業立地件数は14件と、前期(6・7月; 20件)から減少したが、前年同期(11件)に比べて増加した。東海地区の企業立地は全国と同様に15年度前半は減少傾向で推移していたが、15年度後半以降は持ち直してきている。

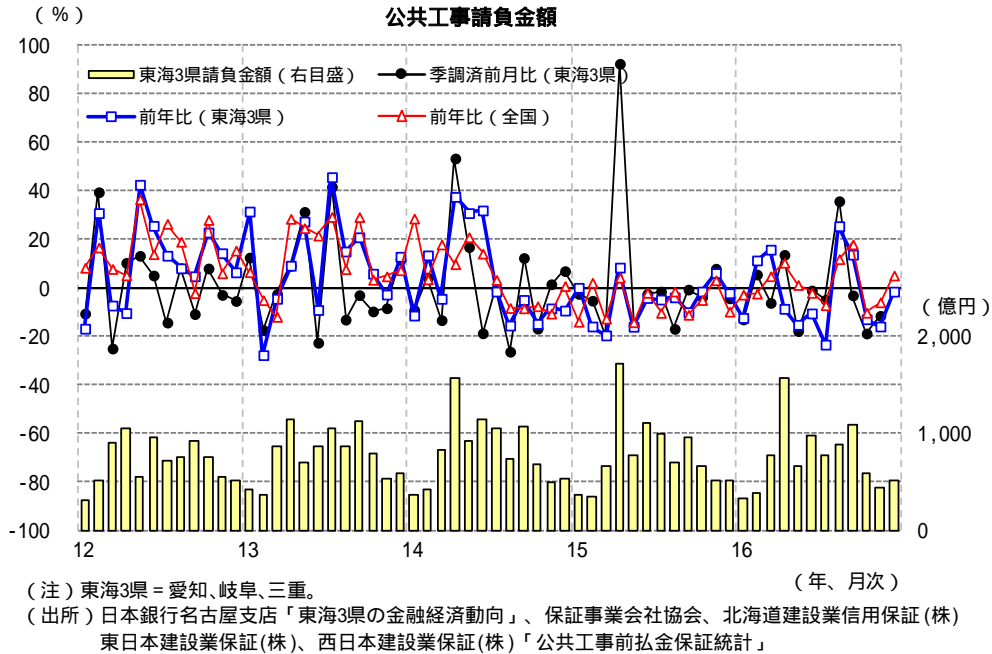


内閣府が11月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の民間企業設備投資は、14年以降を均してみると高水準で横ばい圏で推移している。

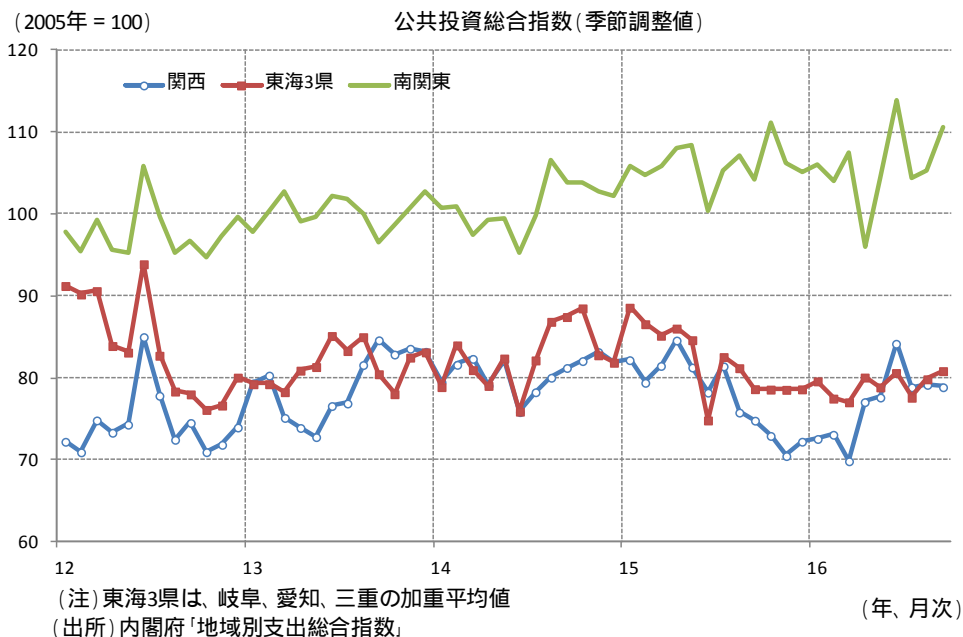


8. 公共投資 ~弱含んでいる

12月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 - 1.3%の515億円と3ヶ月連続で前年を下回った。発注者別では、国が同 - 3.8%と3ヶ月連続で減少し、地方も同 - 0.4%と3ヶ月連続で減少した。また、11月の季調済み前月比は - 11.3%と3ヶ月連続で減少し、年度累計(4月~12月)で見ても前年比 - 5.8%となっている。先行きについては、16年度第二次補正予算の執行などにより、持ち直してくると見込まれる。

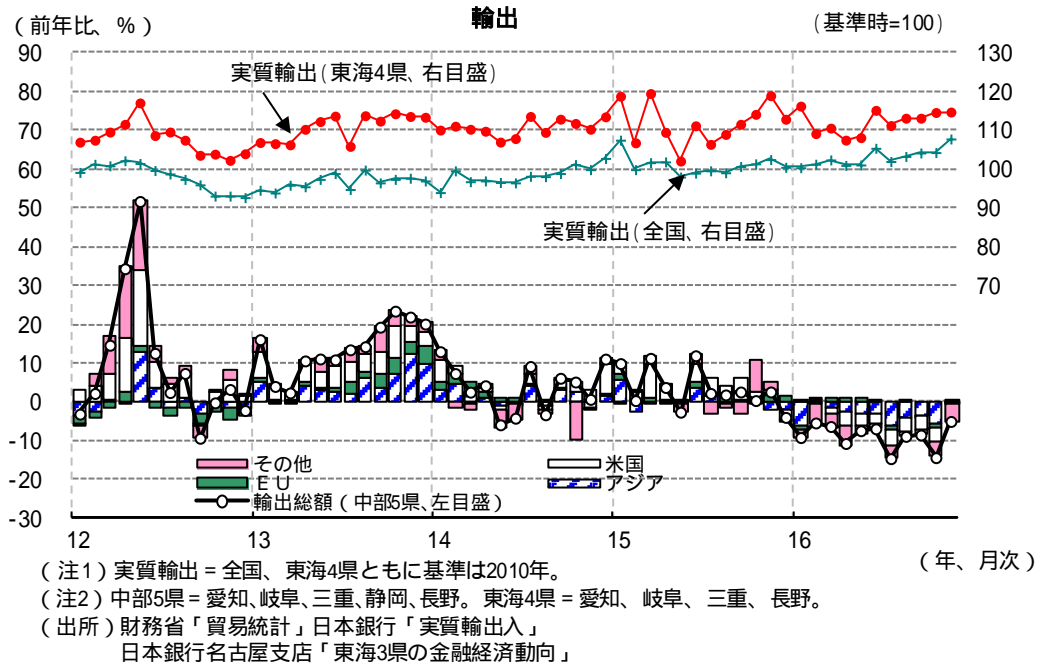


内閣府が11月に公表した地域別公共投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの公共投資は、15年度に入って以降減少し、16年度に入ってから概ね横ばい圏で推移している。

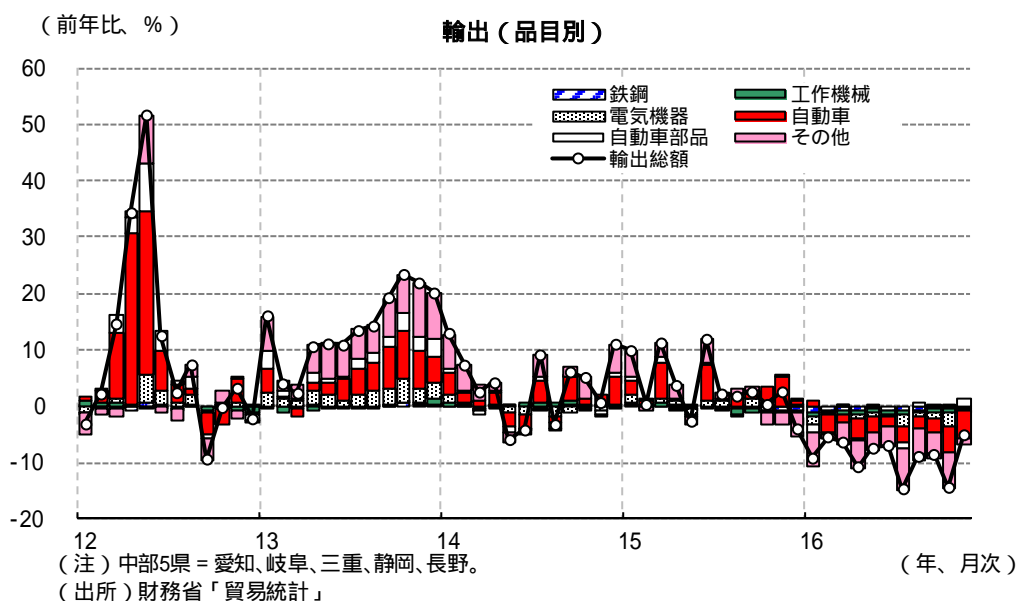


9. 輸出入 ~ 輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい

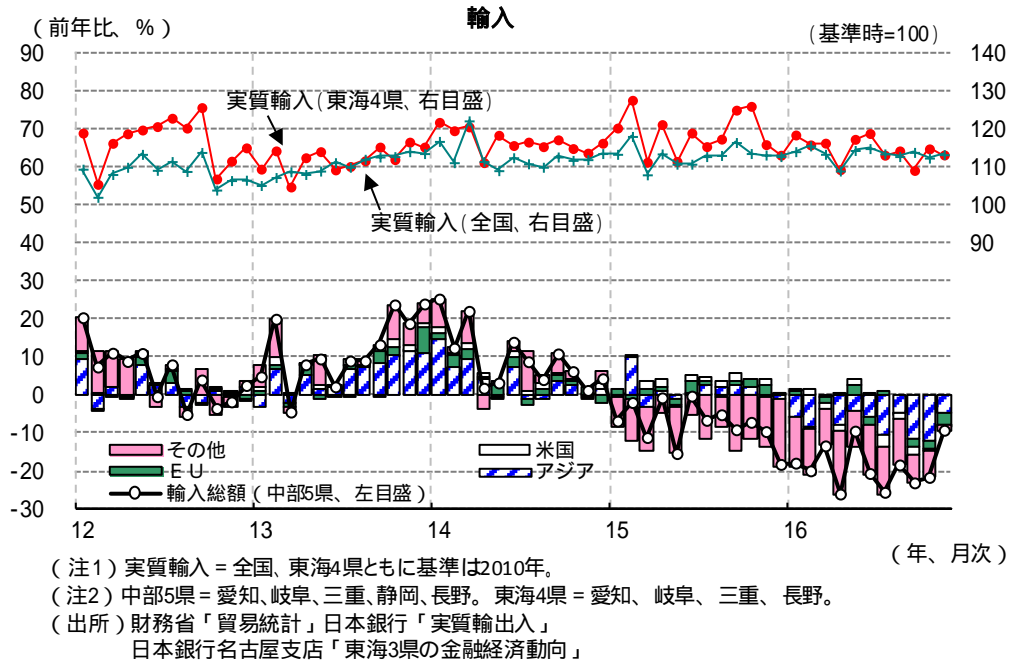
11月の実質輸出(季調済)は、前月比+0.1%と小幅ながら2ヶ月連続で増加した。一方、11月の名古屋税関管内の輸出額は前年比-5.0%と12ヶ月連続で減少したが、減少幅が縮小した。中国向けが9ヶ月ぶりに増加し、アジア向けも16ヶ月ぶりの増加となったが、米国向けは同-1.8%と9ヶ月連続、EU向けは同-3.1%と3ヶ月連続で減少した。先行きは、世界経済が緩やかに回復する中、持ち直しの動きが続くと見込まれる。



11月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、自動車部品(前年比+14.1%)は4ヶ月連続で増加したが、自動車(同-13.0%)は10ヶ月連続の減少、工作機械(同-13.1%)は17ヶ月連続の減少、鉄鋼(同-21.4%)は16ヶ月連続の減少、電気機器(同-0.8%)は8ヶ月連続の減少となった。

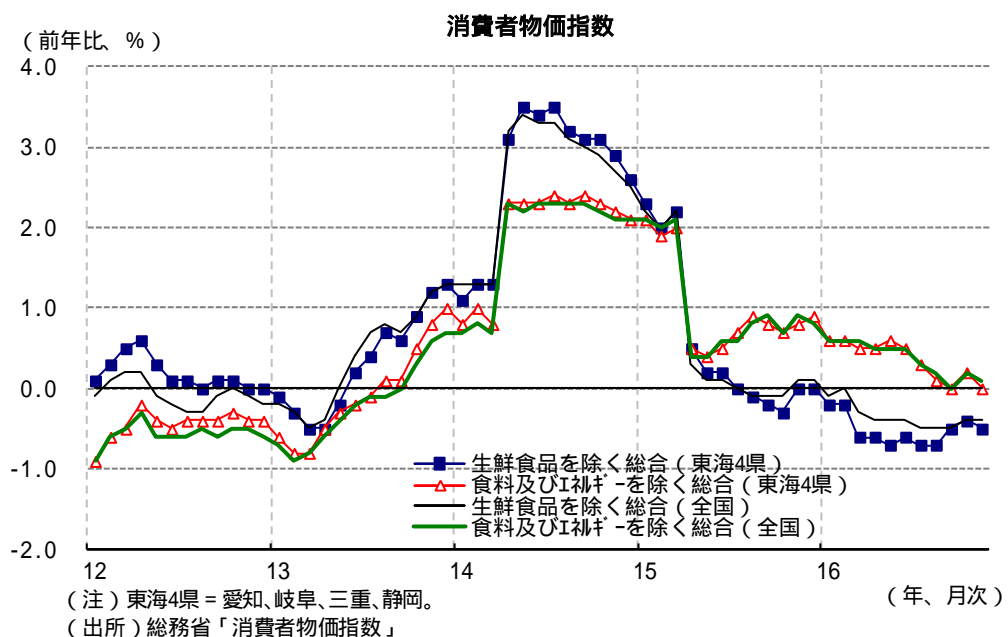


11月の実質輸入(季調済)は、前月比-1.4%と2ヶ月ぶりに減少した。また、11月の名古屋税関管内の輸入額は前年比-9.2%と23ヶ月連続で減少した。品目別には、航空機類が増加したが、自動車、原油及び粗油などが減少した。地域別には、米国、アジア、EU、中東などが減少した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は横ばい圏での推移が見込まれる。



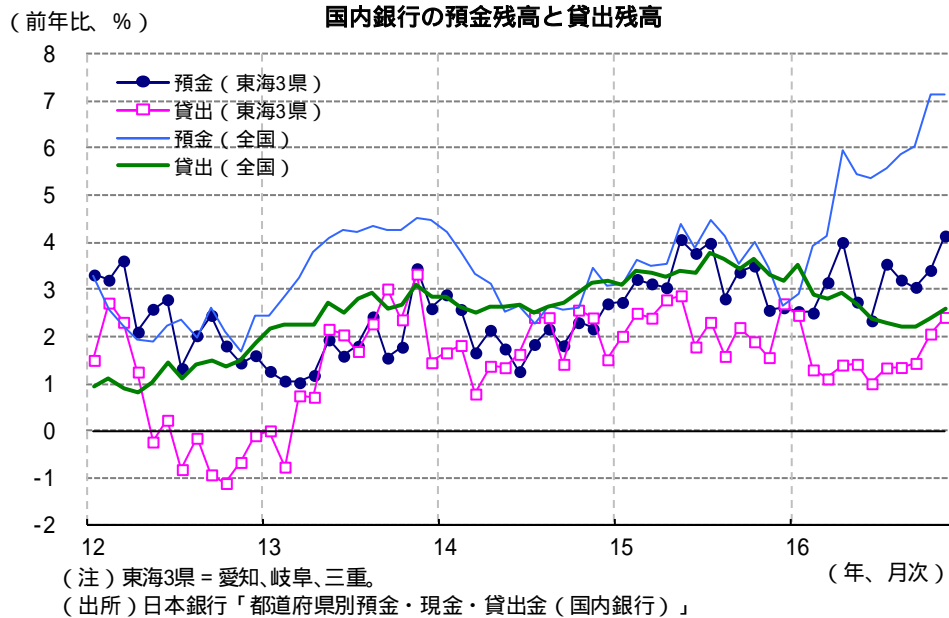
10. 物価 ~ 緩やかに低下

11月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比-0.5%と11ヶ月連続で低下した。食料品価格が上昇したが、エネルギー価格の低下が続いている。食料・エネルギーを除く総合は前年と同水準となった。今後については、エネルギー価格の下落は一巡しており、円安による輸入物価上昇の影響もあって、消費者物価の前年比マイナス幅は緩やかに縮小する見込みである。



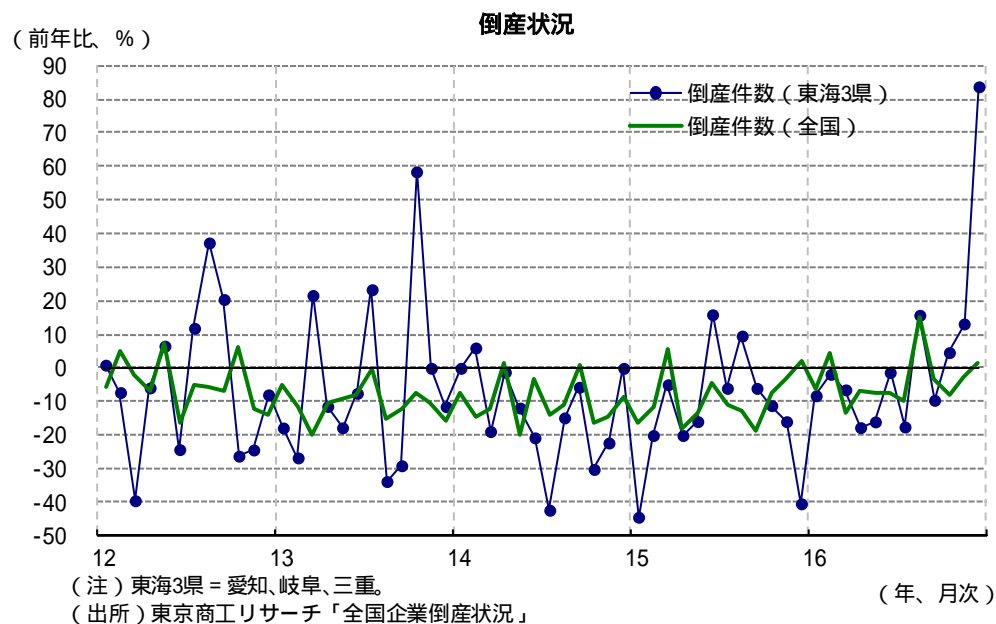
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

11月の東海3県の預金残高(国内銀行ベース)は、法人預金が増加していることを主因に、前年比+4.1%と増加が続いている。貸出残高(国内銀行ベース)は、同+2.4%と45ヶ月連続で増加した。日銀名古屋支店では資金需要が幾分持ち直しつつあることが増加の要因とみている。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに増加

12月の東海3県の倒産件数は前年比+83.8%の68件(前年同月37件)と3ヶ月連続で増加した。業種別では建設業、製造業が大幅に増加した。県別では、愛知県は48件(同25件)と2ヶ月連続増加し、岐阜県は14件(同7件)と2ヶ月ぶりに増加、三重県は6件(同5件)と3ヶ月連続で増加した。また、12月の東海3県の負債総額は、同+153.5%の131億円と3ヶ月連続で前年を上回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	↗	全国	↗	☁	↗	
	東海	→	☁	→	輸出	東海	↗	☁	↗
	関西	→	☁	→	関西	↗	☁	↗	
個人消費	全国	→	☁	→	全国	→	☁	→	
	東海	→	☁	→	輸入	東海	→	☁	→
	関西	→	☁	→	関西	→	☁	→	
住宅投資	全国	↘	☁	→	全国	↗	☁	↗	
	東海	↗	☁	→	生産	東海	→	☁☀	↗
	関西	→	☁	→	関西	↗	☁☀	↗	
設備投資	全国	↗	☁	→	全国	↗	☁	→	
	東海	→	☁	→	雇用	東海	→	☁	→
	関西	→	☁☔	→	関西	↗	☁	→	
公共投資	全国	→	☁	↗	全国	→	☔	→	
	東海	↘	☁	→	賃金	東海	→	☁	→
	関西	↗	☁	→	関西	→	☔	→	

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は1月5日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		12月のコメント	1月のコメント
1. 景気全般	全国	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる
2. 生産	全国	持ち直しの動きが続いている	持ち直している
	東海	一部に持ち直しの動きが見られる	一部に持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直しの動きが見られる	緩やかに持ち直している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
5. 個人消費	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
6. 住宅投資	全国	横ばい圏で推移している	緩やかに減少している
	東海	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	横ばい圏で推移している	緩やかに増加している
	東海	増加が一服している	増加が一服している
	関西	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
8. 公共投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	弱含んでいる	弱含んでいる
	関西	増加基調で推移している	増加基調で推移している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直しの動きが見られる、輸入は横ばい圏で推移している	輸出は持ち直している、輸入は横ばい圏で推移している
	東海	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい
	関西	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい
10. 物価	全国	企業物価、消費者物価とも下落	企業物価、消費者物価とも下落
	東海	緩やかに低下	緩やかに低下
	関西	緩やかに低下	緩やかに低下
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに増加
	関西	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに増加

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国(グラフで見る景気予報)と関西地区(グラフで見る関西経済)の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。